

松山市立子規記念博物館 11 回展

『石丸繁子書道展』 作品目録

会 期 : 平成29年11月19日(日)～11月25日(土)

タイトル : 『150歳の子規と漱石 極堂』

サブタイトル : 『慶応三年生まれ 子規・漱石・極堂の友情』

コンセプト : 11回展は、子規、漱石、極堂の生誕150年を記念して作品化した。

明治28年、子規最後となる松山での送別句を中心に、漱石・極堂との友情、そして明治30年「ほととぎす」創刊までを懸命に追いながら、筆を動かした。これまで、「子規と漱石」をテーマに個展を開催したが、「極堂」は初めての試みである。極堂の子規への献身的な思いは、私の琴線に触れ作品へ反映されたのはいうまでもない。今展では、特に子規から「心を高尚に持つ」ことの大切さを学んだ。これは、書にも通じる言葉である。精進、精進、精進しなければ。子規は、これからも私に多くのことを語りかけ、制作意欲を駆り立ててくれるであろう。

明治28年—子規最後となる松山、漱石・極堂との友情

思ひ出の月見も過ぎて分れけり	明治28年	季語「月見」	季節「秋」	子規
碌堂といひける秋の男かな	明治28年	季語「秋」	季節「秋」	子規
石女の葬の花にうがひかな	明治28年	季語「葬」	季節「秋」	子規
疾く帰れ母一人ます菊の庵	明治28年	季語「菊」	季節「秋」	漱石
菊咲いて待つ人あらんいそぎ給へ	明治28年	季語「菊」	季節「秋」	極堂
見つつ往け旅に病むとも秋の富士	明治28年	季語「秋」	季節「秋」	漱石
此夕野分に向いてわかれけり	明治28年	季語「野分」	季節「秋」	漱石
行く我にとどまる汝に秋二つ	明治28年	季語「秋」	季節「秋」	子規
十一人一人になりて秋の暮	明治28年	季語「秋の暮」	季節「秋」	子規
送られて一人行くなり秋の風	明治28年	季語「秋風」	季節「秋」	子規

明治29年—子規・漱石・極堂30歳、漱石・極堂の結婚

衣更へて京より嫁を貰ひけり	明治29年	季語「更衣」	季節「夏」	漱石
めでたさに石投げつけん夏小袖	明治29年	季語「夏小袖」	季節「夏」	子規
宿帳や春の旅人異名書く	明治29年	季語「春」	季節「春」	子規
湯の町を北にまがれば桜かな	明治29年	季語「桜」	季節「春」	極堂

明治30年—極堂「ほととぎす」創刊

新年や鶯啼いてほととぎす	明治30年	季語「新年」	季節「新年」	子規
蒲團から首出せば年の明けて居る	明治30年	季語「新年」	季節「新年」	子規
春風や舟伊豫に寄りて道後の湯	明治30年	季語「春風」	季節「春」	極堂
城山や筍のびし垣の上	明治30年	季語「筍」	季節「夏」	極堂
手凍えてしばしば筆の落んとす	明治30年	季語「凍る」	季節「冬」	子規

※ 表記は、『子規全集』（講談社）『漱石全集』（岩波書店）『極堂』（参考文献）による。